

多様な人が集まり、
ビジネス・チャンスを広げる。

流通研究OB会

校友会の支部には日本の全都道府県にある「地域支部」のほかに、企業や業界関係者などを中心とした「職域支部」があります。今回は流通に関心のある多様な業界の人が集まり、講演会や店舗見学など、活発に活動している「流通研究OB会」を紹介します。

今回の「東日本大震災」では、消費者に食品や日用品などを届ける流通業・小売業の重要性が、改めて注目されました。長年、流通問題に関心の高い人たちが集まる、「流通研究OB会」の設立趣旨や活動について、坂上和也会長にお聞きしました。

「会に参加すると楽しい。いろいろな人との新しい出会いがある。また、新しい情報が得られ、勉強にもなる……。そうしたことが目的であり、理想としています。それと、大学の同窓の人たちが集まるメリットは、初めて名刺交換した同士でも、年代の開きがあっても、10年来の知己のようになれることです。これは凄いと思います。

活動の中心は年に1回、総会・講演・懇親会の三部構成の催しです。毎年参加者は約100人で、かなり大勢です。ただ、こうした会は、常連さんの集まりにとどまっていたら、あまり意味がありません。若い人にも参加してほしいので、参加しやすい仕組みづくりを行ったり、意識するようになっています。



お話を
聞いた人

流通研究OB会会長
坂上和也さん
(昭45・経済)



年に1回、
会報を作成し、
会員に配布

今後の計画としては、副会長を各年代ごとに決めようと思っています。たとえば、20代、30代、40代、50代、60代以上の計5人です。20代の方が参加しても、『なんだ、年配ばかりだ』となると、次に参加しなくなることも予想されます。この5人の方々が、各年代の人とのつなぎ役になるわけです。

また、当初は小売業中心でしたが、次第に間屋さん、メーカーさんも集まるようになりました。いまでは、それらの業種以外にも証券会社勤務の方など、幅広い業種の方々が参加するようになっています。

最近、会で盛り上がっているのはビジネス面でのマッチングで、『同窓生同士だから、安心して取引できる』ようになれば良いと考えています。全国規模でみると多くの社長さんがいらっしゃいますし、流通・小売分野に従事している方も多数います。こうした人のネットワークを活かさないのは、もったいないですね。今後、他の職域支部と一緒に活動したり、ビジネス・チャンスを広げることができたらと考えています。

最後に、校友の皆さんにお願いしたいのは出身大学を聞かれたら、自信と誇りを持って『専修大学です！』『専大卒業です！』と、堂々と言ってほしいですね。私たちは素晴らしい大学を、卒業しているのですから」

(聞き手・編集部)

流通研究OB会 ●会員数 256名 ●年会費 2,000円 ●懇親会費 8,000円

わくわく広場

「会社名は㈱タカコシで、専務は校友の高品謙一さん(平8・経営)。千葉県を中心とする農産物直売スーパーです。私は直接、行ったことはありませんが、NHK『ニュースウォッチ9』の1月21日放送では、『急成長! 農産物直売所』というタイトルで紹介されました。それを見ると、お金をかけないで、買いやすい店づくりをしている。商品が引き立っていました」

江戸感覚



コレド室町。外観は近代的なビルだが、中は江戸情緒たっぷり。

「江戸時代は、ゆったりとした時間の流れの中で文化を育みました。何事につけ、スピードが求められる現代だからこそ、再評価されているのかもしれない。江戸感覚のお店づくりでは東京日本橋のコレド室町、羽田空港国際線ターミナルなど、『江戸』をテーマにした商業施設が増えています。また、テレビドラマでも『江戸』を舞台にした『日曜劇場「JIN 仁」』が人気を集めていますね」

サカガミグランゲート



JR東日本東京駅構内京葉線B1
03-3217-5255

「当社のお店で恐縮ですが、東京駅のJR京葉線ホームの上にある20坪ほどのフードマーケットです。お客様はもちろん同業者さん、間屋さん、メーカーさんの方も訪れています。東京ディズニーランドや幕張メッセなどにお出かけの際は、ぜひお寄りください」

主な年間活動カレンダー

年に1回 総会・講演・懇親会

店舗見学(随時) 2010年は㈱ヨークマートの東京・石神井店を見学。